

訪問看護ステーションにおける多機能化 複合型サービスの実践



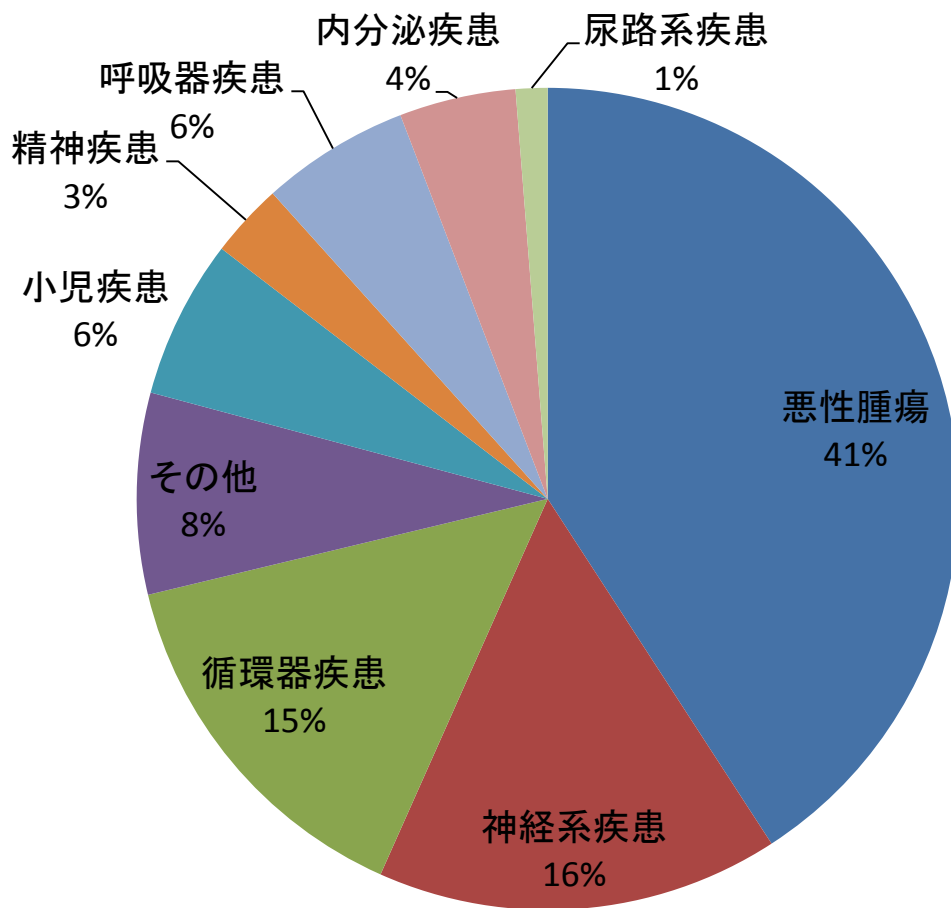
佐賀県看護協会訪問看護ステーション
2014.11.15
上野幸子

佐賀県看護協会訪問看護ステーション

- 1995年設立 24時間連絡対応体制
- 職員数・看護師：19名（常勤換算15名）・ST： 1名
 - ・介護支援専門員2名
 - ・介護職11名（介護福祉士6名）
 - ・事務職3名 計36名（10月現在）
- 利用者120名/月 訪問件数1000件/月
- 機能強化型訪問看護 I
- 併設事業所：居宅介護支援事業
療養通所介護事業
グループホームとの医療連携
ケアステーション野の花

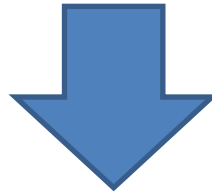
訪問看護ステーション利用者疾患別割合

平成25年4月～平成26年3月



住み慣れた地域で 在宅療養を続けるために

- 訪問看護や訪問介護が限られた時間に訪問し、「点」で支えるだけでは、在宅療養の継続は困難



療養通所介護事業所の開始

- 脳血管障害後遺症、認知症、難病等を有する重度要介護者又はがん末期の者であって
常時看護師による観察が必要な状態の者

重度障害児の在宅支援



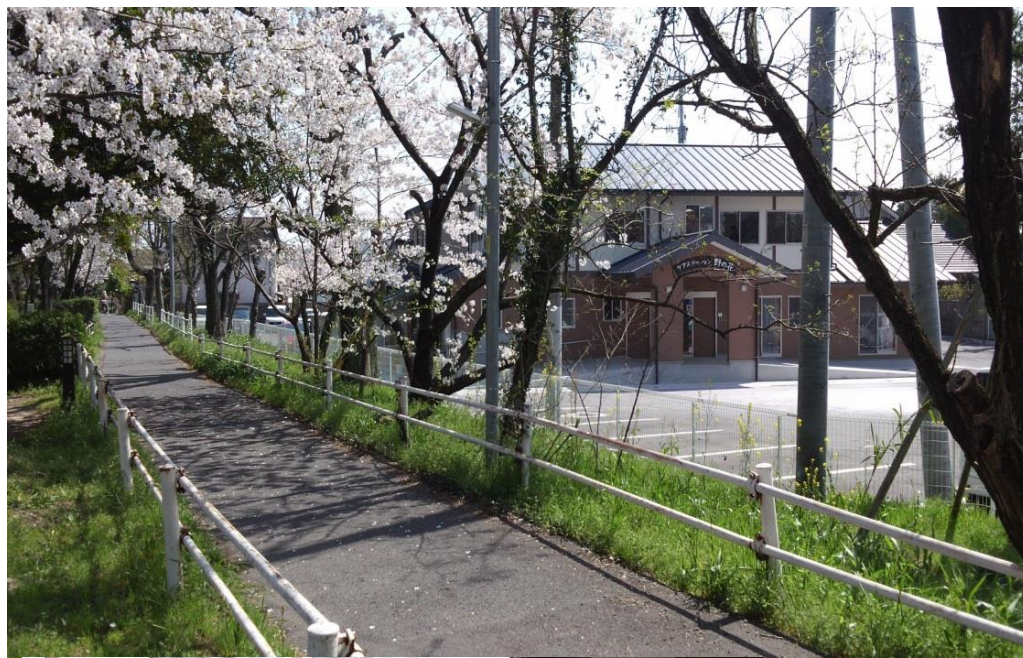
複合型サービス取組へのきっかけ

- 療養通所介護事業(3床)での限界
 - 医療ニーズの高い利用者のレスパイト
 - 在宅看取りでの支援強化の必要性
 - 設備面での限界(浴室・共有スペースの不足)
- 訪問看護師だからできること
 - 生活の場で医療ニーズにこたえること
 - なじみの顔がある安心感

開設までの経過

- 2006年： 療養通所介護事業所開設
- 2010年： 日本看護協会「複合型サービス」
モデル事業参加
- 2012年： 地域密着型サービス設置計画に申請
設置決定
介護基盤緊急整備等臨時特例基金
申請⇒交付決定
- 2013年3月： 新築移転
- 2013年4月： 複合型サービス
「ケアステーション野の花」開設

複合型サービス ケアステーション・野の花



複合型サービス ケアステーション野の花概要

- 開設:2013年4月1日
- 佐賀県看護協会訪問看護ステーションでの
2枚看板
- 登録人員25名・泊まり・5名・通い・15名

人員体制:看護師専任2名・兼務17名

介護福祉士:6名・介護士:6名



建築面積: 336.43m²
1F床面積: 314.07m²
2F床面積: 164.72m²
延べ面積: 478.79m²

ケアステーション「野の花」自治会説明会



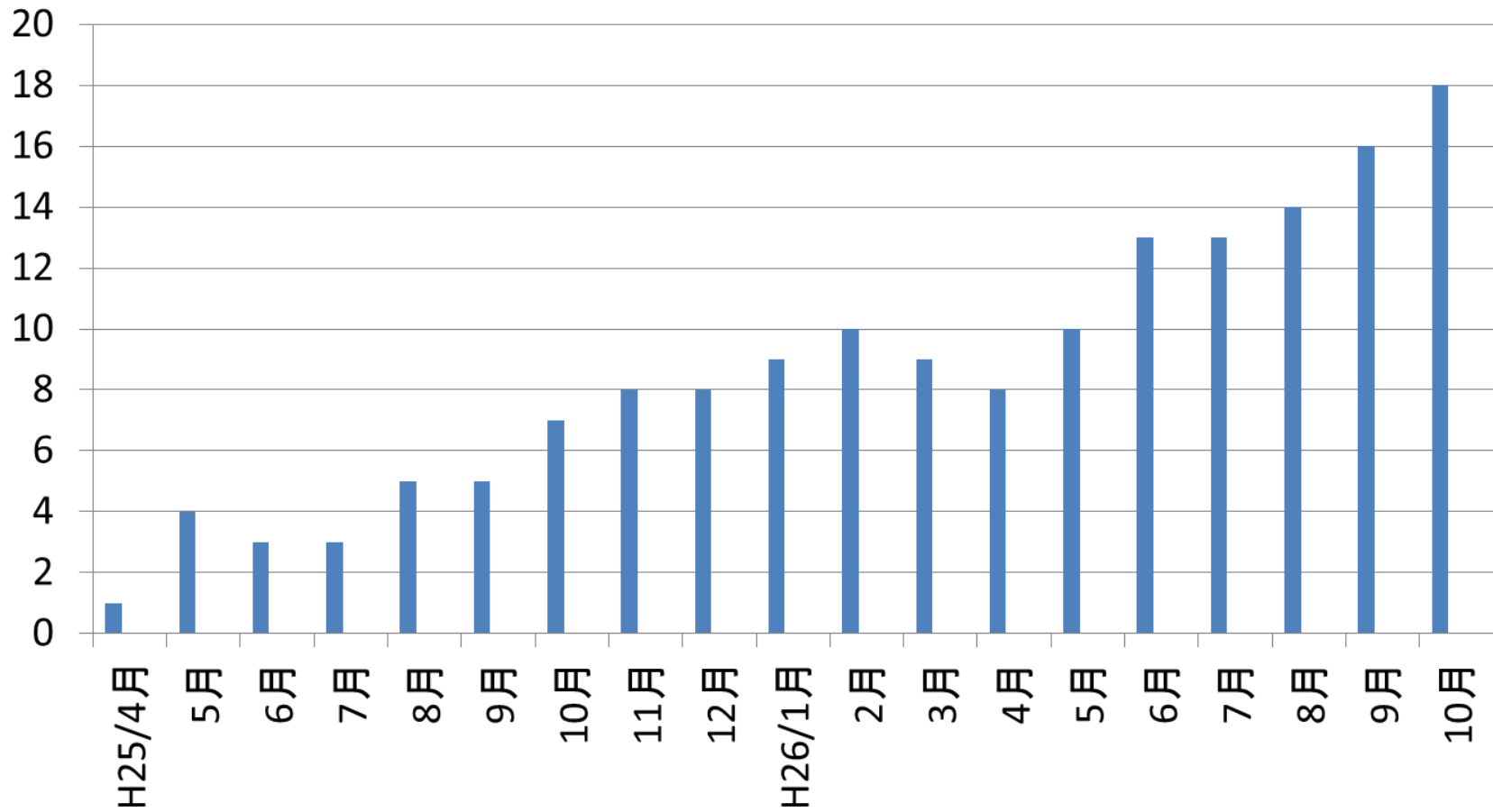
4月開設以降の利用者

	年齢-性別	疾患名	介護度	
1	90歳女性	アルツハイマー型認知症	要介護 1	
2	89歳女性	アルツハイマー型認知症	要介護 5	
3	63歳男性	胃癌・癌性腹膜炎	要介護 2	死亡
4	72歳男性	胃癌・肝転移		死亡
5	48歳女性	侵襲性肺アスペルギルス症	要介護 4	死亡
		両側生体肺移植後(人工呼吸器)		
6	95歳男性	心不全・認知症	要介護 5	
7	54歳女性	ALS	要介護 5	
8	71歳女性	心サルコイドーシス・慢性心不全	要介護 2	
9	74歳男性	パーキンソン病	要介護 3	
10	79歳女性	直腸癌・肝転移	要介護 4	死亡
11	88歳男性	胃癌	要介護 5	死亡
12	90歳男性	前立腺癌	要介護 5	
13	80歳女性	肛門管癌	要介護 1	

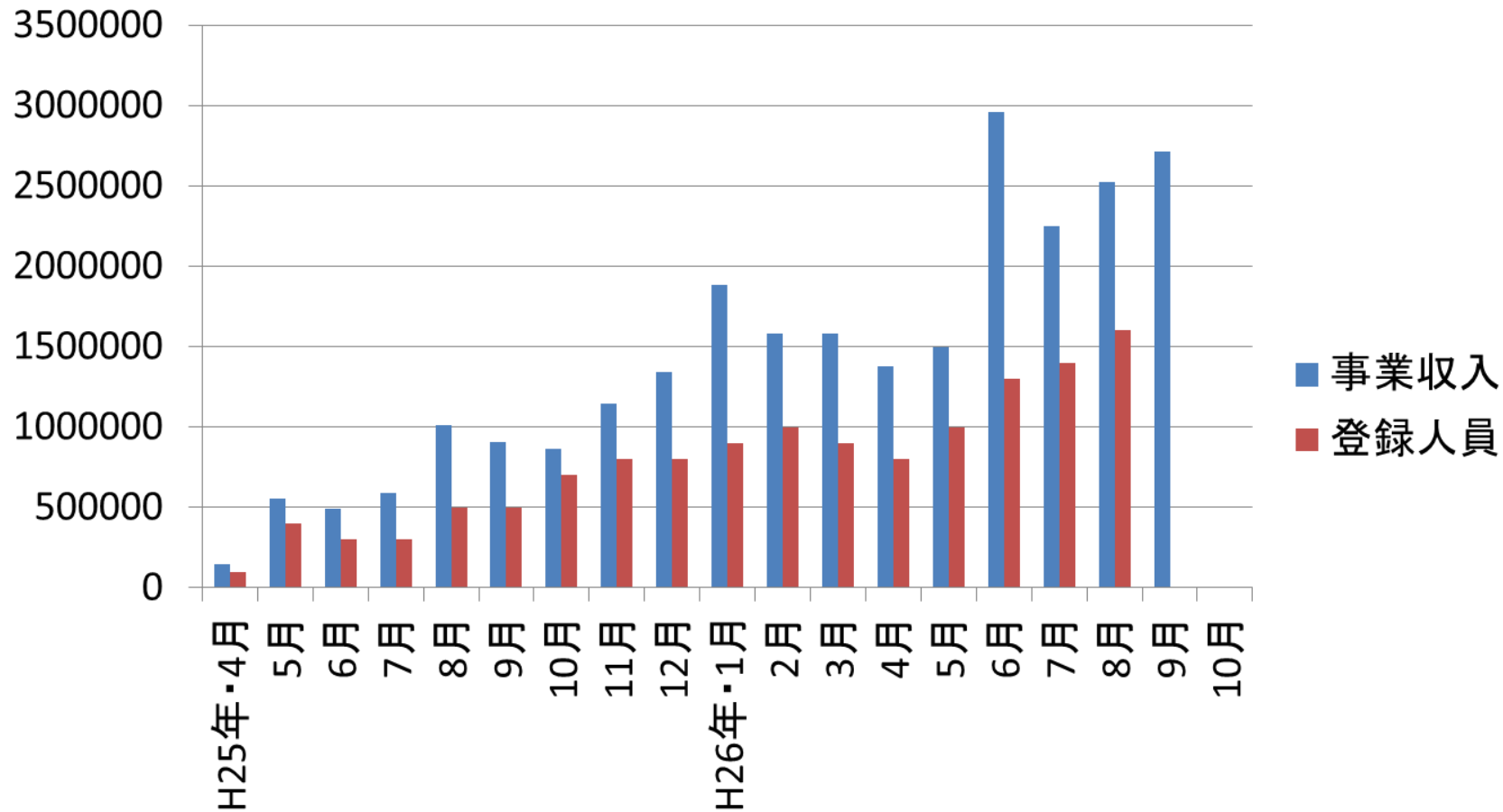
4月開設以降の利用者

	年齢-性別	疾患名	介護度	
14	75歳女性	アルツハイマー型認知症	要介護 1	
15	87歳女性	心不全	要介護 3	
16	77歳女性	パーキンソン病	要介護 1	
17	90歳女性	悪性リンパ腫疑い	要介護 3	
18	80歳男性	肺癌末期	要介護 2	死亡
19	70歳女性	ALS	要介護 2	死亡
20	53歳女性	膵がん末期	要介護 2	
21	88歳男性	非ホジキンリンパ腫末期	要介護 4	死亡
22	83歳女性	左腎癌末期	要介護 1	死亡
23	73歳女性	アルツハイマー型認知症	要介護 1	

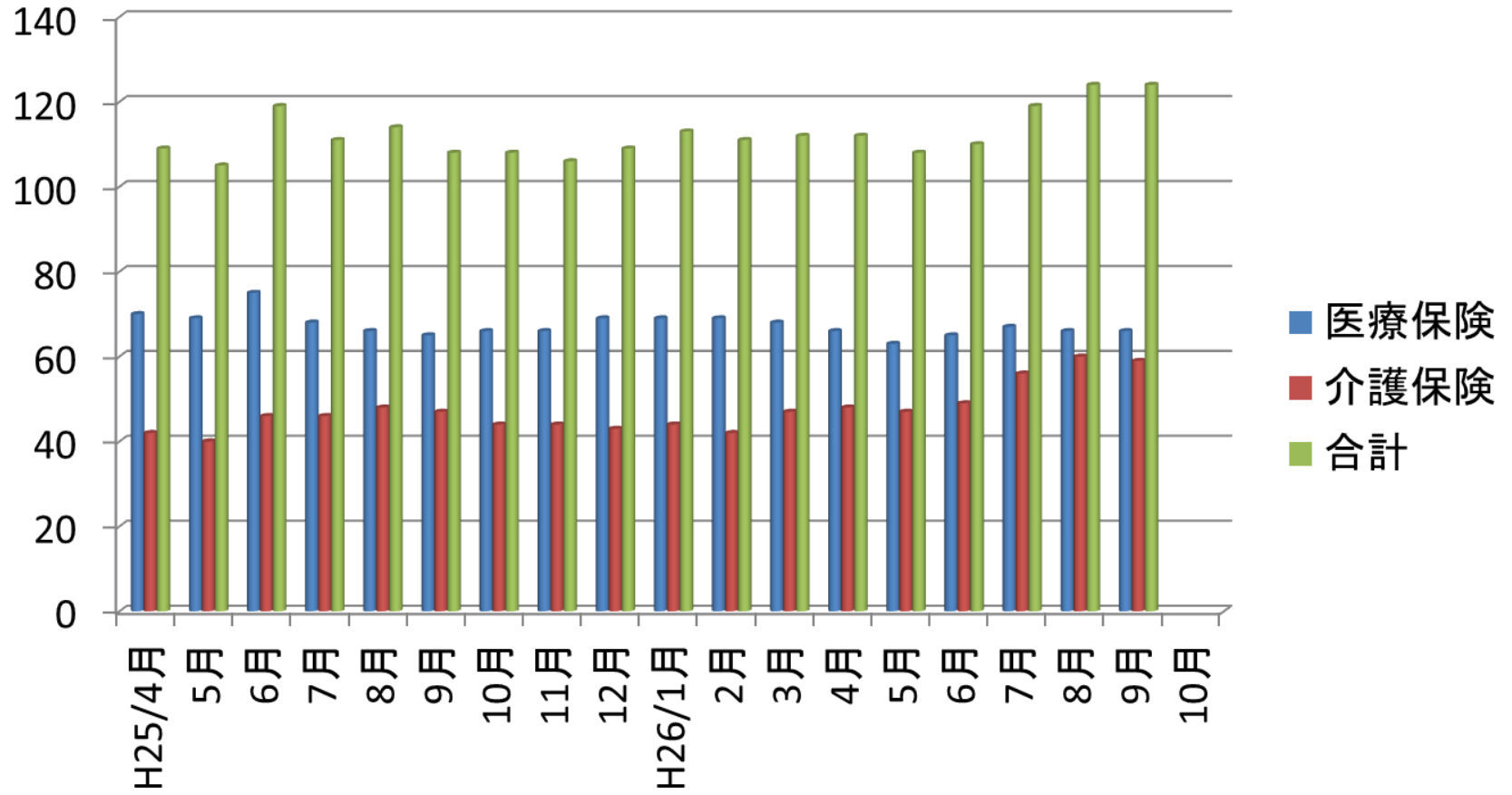
ケアステーション野の花 利用状況



事業収入 & 登録人数



訪問看護利用者数



療養通所介護事業所の継続

- 重度障害者・児の受け入れ
- 療養通所介護における多機能型事業

重心型の児童発達支援事業

生活介護事業

- ①療養通所介護の定員枠内(2012年4月より、定員9名以下)で定員5名の指定を受け、療養通所介護と一体的に利用者の受け入れができる。
- ②人員配置:児童指導員または保育士1名以上提供時間に3人の職員配置・看護師:療養通所介護と兼務可能。管理者も兼務可。
- ③報酬:利用時間に関係なく1回に対する利用料である。

旧ステーション通所室



療養通所室









野の花コンサート

皆さんプロです。



季節ごとのイベント

- ▶ 1月：自治会と共同で餅つき
- ▶ 3月：ひな祭り
- ▶ お誕生日会
- ▶ 4月：お花見
- ▶ 8月：納涼夏休みエンジョイプラン
- ▶ ソーメン流し
- ▶ 9月：敬老会
- ▶ 11月：「わくわく！秋の遠足！カラオケボックスもあるよ」
- ▶ 12月：みんなで歌おう♪合唱の日
- ▶ クリスマスコンサート
- ▶ ハロウィン
- ▶ 七夕会
- ▶ 子供みこし
- ▶ 定例コンサート



複合型サービスの効果

- がん末期の利用者にとっては
 - ① 在宅緩和ケアを支援する場の拡大
 - ② 在宅看取りに対する不安の解消
 - ⇒ デイホスピスとしての機能強化
- 病状や介護の不安に即時対応、柔軟なサービスの提供、時間の制限なく本人、家族の状況に合わせた支援が可能。
- 利用の頻度に関わらず、費用負担が膨らみ過ぎない。
- 医療ニーズが高くても対応が容易に可能
- 急性期病院からの退院先の選択肢として
- 訪問看護のシェアの拡大となる
- 介護職としての成長・(看取りへの対応など)

今後の課題

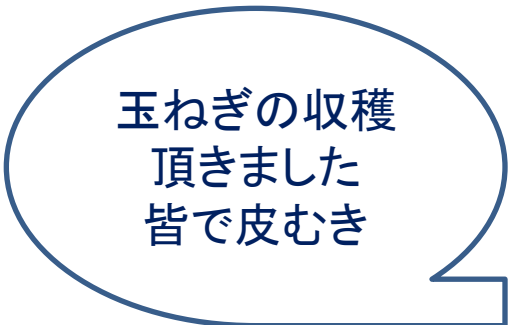
- ▶ 地域密着型サービスとしての制限
(新規利用者以外はケアマネージャー、ヘルパーの変更が必要)
- ▶ 看護職と介護職との連携：(スタッフが定着すると解決し易い。)
- ▶ 介護保険対象外の利用者でも制度の縛りに左右されることなく多様なニーズに対応できるような支援であること
- ▶ 複数事業運営による事務作業の煩雑さ
- ▶ 兼務と夜勤が伴うシフトの複雑さ
- ▶ マンパワーの不足 介護職・若い訪問看護師
- ▶ 複合型サービスのPR不足

複合型サービスの整備を進めるためには

- 新たな施設の整備のための投資
- 小規模多機能型居宅介護事業所からの転換
- 訪問看護ステーションからの転換



- 国・県整備費補助金制度等の活用
- 中小企業労働環境向上奨励金
(厚生労働省労働基準監督署)
- 日本看護協会の開設支援
- あらゆる資源の活用とネットワーク





野の花で子供クラ
フと一緒になが～
いソーメン流し



複合型サービスは

- 在宅ケアのノウハウを持つ訪問看護師の機動力を最大限に活かし、介護職との連携のもとバックベットの持つことで、利用者・家族の「最後まで家で」という思いを支えることができる。
- 地域の実情に合ったやり方ができ、自治会の範囲を超えた取り組みができる。同時に 事業所の範囲を超えた取り組みに繋がる。